

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第8回）議事概要

日時 令和8年（2026年）1月14日（水）14:00～15:00

場所 宝塚市役所第二庁舎 会議室A・B

出席者

＜まちづくり協議会＞

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	井手 義明会長	●	
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長		
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれが丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	赤阪 俊一会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

＜その他＞

市長

企画経営部 藤本部長、谷口次長

広報課 夏梅課長、久家係長、上杉職員

市民交流部 藤田部長、新城次長

市民協働推進課 久住係長、押川職員他

地域福祉課 田辺課長、池本係長

宝塚市社会福祉協議会 地区担当支援課 前蘭課長

宝塚 NPO センター 平岩氏

メットライフ生命保険株式会社

議事概要

1. 市長挨拶

2. 広報板見直しの方針決定（広報課）

広報課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 「譲渡希望の広報板を修繕」「順次、自治会へ譲渡」となっているが、我々の自治会の中でも譲渡を希望する自治会と希望しない自治会があるが、まちづくり協議会として全部譲渡を受けたいと思っているため、自治会へ譲渡だけではなくまちづくり協議会への譲渡も考えていただきたい。以前にお知らせしているとおりである。

イ （広報課）資料が誤植となっており、こちらとしては、自治会もしくはまちづくり協議会でご希望があったところに譲渡させていただく認識で進めている。大変失礼いたしました。

3. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第7回）議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへ公開することが承認された。

4. 宝塚市地域福祉計画（第4期）〔案〕に係るパブリック・コメントの実施について（地域福祉課）

地域福祉課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

5. 暮らしとお金に関する勉強会・イベントを開催しませんか？～宝塚市との連携協定の締結を受けて～（メットライフ生命）

メットライフ生命保険株式会社より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 数ある保険会社の中で、なぜメットライフ生命保険株式会社と宝塚市が連携協定を結んだのか。

イ （メットライフ生命）協定自体は、宝塚市は兵庫県で神戸市、姫路市に続き、3市目になる。

ウ （市民協働推進課）宝塚市は、民間の企業や学校と協働のまちづくりを進めていこうと、市がすべて市民サービスをやっていくことはなかなか難しいというところで、いろんな方と連携協定を結ばせていただいている。メットライフ生命保険株式会社が初の協定ではなく、これまでも様々な団体と包括連携協定なり、個別の連携協定を結ばせていただいている。例えば、阪急阪神ホールディングス株式会社やエイチ・ツー・オーリテイリング株式会社とも包括連携協定を結ばせていただいているし、同じ生命保険会社だと明治安田生命相互保険会社とも結ばせていただいている。多くのところと協定を結んで様々な取り組みをやっていこうと取り組みを進めている。昨年、メットライフ生命保険株式会社とお話する機会があり、様々な話をしていくうちに、協定を結んで市民サービスを提供できるのではないかと話が進み、どんなことだったらサービスを提供できるのかというところで、今回ライフデザインの

機会の創出というメットライフ生命保険株式会社が得意とする金融知識や、先程住宅ローン
の話もあったが、老後や相続の関係等様々なことについて知識として提供いただけるという
ところで、昨年9月に協定を結び、このような機会の提供を頂けることになった。

宝塚市との包括連携の一覧をホームページにも載せているので、気になる方は参考にご覧く
ださい。

エ サロンを毎月やっており、おそらくこのような話に興味を持っている方は地域にいると思
う。連絡を取ろうと思ったら、市民協働推進課に連絡し、紹介してもらったらいいか。

オ (市民協働推進課) チラシの下に記載されているとおり、市民協働推進課に一旦は聞いてい
ただけたら、お繋ぎさせていただく。

6. 市民協働推進課からのお知らせ

市民協働推進課より、(1)～(3)について、配布資料に基づいて説明があった。

(1) (再周知) 地域ごとのまちづくり計画令和7年度進捗確認及び後期計画の策定について

(2) ワークショップアンケート結果報告

(3) 市民と市長の対話ひろば(1月)の開催について(市民相談課)

7. 社会福祉協議会からのお知らせ

(1) 令和8年度(2026)フレミラ宝塚 主催教室 受講生募集について

社会福祉協議会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

ア こういう案内は、他にどのようなところに置いているのか。

イ (社会福祉協議会) フレミラ宝塚や、総合福祉センターにも置いてある。まちづくり協議会
にも適宜配布するが、あまり部数を持っていないので状況による。ご希望があればお持ちす
る。

ウ 地区センターから電話でお知らせいただいたが集まるタイミングがなく、どのように周知し
ようかと思っていた。

エ 申込みの期限がとても切迫していて、本当に2月2日必着なのか。役員会でアナウンスする
暇がない。

オ (社会福祉協議会) 必着である。申し訳ない。広報でもご案内はさせていただいている。

カ 少なくとも来年からは、これよりも1か月以上は早く出していただきたい。

キ (社会福祉協議会) 承知した。

8. その他

(1) パブリック・コメントについて

ア 様々な形で、こういう場で、パブリック・コメントを求めるチラシや案内が来るが、見つけ
にくい場所に水道局のパブリック・コメントが載っていた。これまで、水道代の値上げの話
は説明されていたが、どのように水道事業を計画されているのかについては、皆さんがわか
りにくいところに載っていた。市としてパブリック・コメントを求めるのであれば、こうい
う場に出てきて説明して、皆さんに広報していただいたら、もっとより良い意見や知恵が出
てくるのではないかと思うがどうか。

- イ （市民協働推進課）上下水道局のパブリック・コメントのホームページがわかりにくかったことと、ここで説明があった方がいいのではないかとという2つのご指摘があったと認識している。わかりづらかった件は、市のパブリック・コメント一覧に載っておらず、おそらく上下水道局が別ページで掲載しているのが事実としてある。また、パブリック・コメントを必ずしも代表者交流会に出すというルール付けはできていない状況のため、そういったご意見をいただいたことを上下水道局にお伝えし、影響が大きい内容のものはご説明も含めて担当課に考えていただくようにお伝えしておく。

（2）市民と市長の対話ひろばについて

- ア （西谷）先日の日曜日に、西谷で国際バカロレア教育の件で市民と市長の対話ひろばがあった。予定よりかなりの人数が参加し、60人くらいだった。結構興味のある方が多かった。国際バカロレア教育とは何かというところから始まって、我々の地元のことなので多少は実感してきているが、かなり若い保護者の方が興味を持っている。西谷地区でということに今はなっているが、将来的には南部もという考えもあるようなので、ぜひ参加して認識していただけたらと思う。西谷が最初ではないかもしれないが、先日前田さんも来ていただいて、興味のある話をしていただいた。
- イ 先日、西谷で外国の方を呼ぶような活動があると伺ったが、実際にその話があるのか伺いたい。
- ウ （西谷）呼ぶのではなく徐々に増えつつあるということであるということである。抵抗がある方がまだまだおられるので勉強会をしようと、前は川西市から韓国の講師を呼んだ。西谷には、ベトナム人の就業者や、老人ホームの職員としてインドネシア人が4名来られる。介護施設等の外国人労働者が増え、外国の方が住まれる。正直なところなかなか抵抗感があるので、呼ぶというより地元が対応できるように多文化共生という意味で勉強会をしている。

（3）生成AIについて

- ア うちのまちづくり協議会で広報担当からAIの対応のことで情報交換をした。AIが一人走りして、例えば、総会で新年度の役員の個人名をブログで挙げると、どこかで広がってしまう。話に挙げたのは、「〇〇は誰か」とAIに検索をかけると、情報がたくさん出てきて、AIが学習し、情報が拡散されてしまう。特に、まちづくり協議会や自治会関係で地域に情報を提供するときに、役員名や個人名を出しにくくなっている状況であると、注意喚起があった。既に、この件について対応されているまちづくり協議会があれば参考にお話を伺いたい。また、市民協働推進課の地域担当にもその話を共有しといてほしいとお願いしていたが、個人情報についてはみんなで丁寧に対応することとなった。AIそのものが得体のしれないものになってきているため、その辺については今後いろいろ対策を考えていかないといけない。情報提供も兼ねてご報告させていただいた。
- イ 私もAIでまちづくり協議会のことをいろいろ調べているが、例えば、「宝塚第一小学校区まちづくり協議会ってどうか」と質問すると、こういう活動をしてこういうことをやっているとかかなりのことが出てくる。我々が市に提出している資料や総会資料のどこからかわからな

いが、あらゆることがそこに集中してすべてわかってしまう。うちのまちづくり協議会の活動の評価が出てきてびっくりする時代になってきた。情報を遮断することは無理だが、使い方や個人情報については注意しなければならない。最近宝梅中学校の校長先生と話す機会があり、皆 AI で書いてくるため読書感想文をやめると聞いた。若い人は AI を道具として使っていて、我々が考えている人以上に Z 世代、α 世代に普及している。扱い方については非常に注意しないとイケないし、コミュニティひばりの会長がおっしゃった様に AI についてどうするか、市もしっかり考えていただきたい。

ウ 心配しているのは、いろんな課題が出てくるときに、AI がこの人は賛成派この人は反対派と対立を招くようなことを質問の仕方によっては出てくるわけで、ものすごく情報を出しにくいと思った。おっしゃるように新しい時代になっているので、いろいろ対策を考えないといけない。

エ (市民協働推進課) 市役所として、どのように AI を使っているのか 1 つ参考になるのかと思い、お話をさせていただく。いろんな市町村で AI をどれくらい使っているのかを、国やいろんなところが調べているが、少しでも使っているというのを入れれば、8~9 割の自治体が AI を使っている。各自治体で AI の使い方のルールを決めているところで、宝塚市も職員向けに AI の使い方のルールを決めて運用を積極的にしている。例えば、皆さんにお配りしている挨拶文であったり、色んな文章を各課がそれぞれの判断のもとで、そのガイドラインに応じて作っており、市民協働推進課でも随時 AI を使って業務を行っている。これを AI で作成したといちいち案内していないが、いろんな文章を作るときや何か事業を考えるときに AI を使っている現状である。その中でルールとして細かいところを定めているが、まず個人情報を入れないことと、学習させるか、させないかの機能があり、入れたら答えをもらえるが、それを他の人に使ってほしくないから学習させないという設定を必ずする。学習させないというところで完全な文書や既に公開されているものなら使っても問題ないが、意思形成の部分について、取り扱いには非常に気を付けなければいけない。また、今の AI のレベルは間違えることがある。例えば、特に ChatGPT などの有名なものは、数字に弱い。数字を計算させると、足し算引き算を間違えるレベルがあったりなかったりする。市のガイドラインにもあるが、必ずそれを鵜呑みにするのではなく、数字以外の出たきた情報についても確認する。あとは著作権を勝手に侵害していないか、ネットからいろんな図形などをすべて拾ってくるため、それがもしも著作権に違反するようなことがあれば、それを使ってしまうと違反になる。AI で出てきた答えをそのまま信じるのではなく、いろんなチェックをしようというルールに関しては運用を始めている。市役所に関してはそういう運用になっている。おそらく市民活動をやられているまちづくり協議会や自治会でも、これから AI を十分に注意しながら活用されていく中で、同じような悩みがますます増えていくと思う。情報のセキュリティというところで、市民協働推進課から資料も作成して、情報セキュリティの注意喚起をお知らせしているので、まちづくり協議会や自治会が AI をどのように活用していったらいいのか学べるような工夫をできないか、検討を進めていきたい。

9. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。